

# きゅうり



品種：極光

科名	特 性
ウ リ 科	キュウリ属のつる性 一年草及び果実
	10度以下の低温には弱く、25度以上の高温にも弱い。 根が浅い為、乾燥に弱く、高温乾燥が続くと、うどん粉病などにかかり枯れる。
	種まきの時期をずらしながら栽培することによって長く収穫できる。
	多少の曲りは、生育途中の栄養状態などによるもので、鮮度や味、栄養には関係ありません。

## 生産者紹介



ハウス前にて（本人、母、父、弟）

中村さんは、家族5名（本人、妻、弟、父、母）で、きゅうりと水稲を栽培されています。

有機栽培に取り組んでおられ、優良堆肥（ボカシ）を6t/10a(1,000㎡)投入しながら、おいしく安心して安全なきゅうりを生産されています。

今後も有機栽培を継続しつつ、30t/10a(1,000㎡)の収量を目標とされています。

南島原市では、きゅうり 30ha(300,000㎡)が作付けされています。（推計）

### 中村さんの栽培管理状況

9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月					
初	中	下	初	中	下	初	中	下	初	中	下	初	中	下	初	中	下	初	中	下	初	中	下			
播種			接木			定植			温度・水管理			収			穫			・			調			整		

# 作業風景と作物の生育状況



取材させて頂くハウスは広さ約1,800㎡です。  
周囲には水田やハウスがあります。

月日	作業風景	作物の生育状況	
11月 下旬	 <p>定植後20日目です。背丈程に伸びたつるを誘引しています。少し、花もついてきているので、今後は摘芯を行います。</p>	 <p>つるは支柱を中心として、巻きついています。手作業により、支柱に巻きつくように誘引した結果です。</p>	 <p>黄色い花から果実へと変化していきます。</p>
12月 初旬	 <p>収穫作業が始まりました。午前中に収穫作業は始まります。22～23cm程に成長したきゅうりを1本ずつハサミで収穫します。</p>	 <p>果実が徐々に成長していきます。</p>	 <p>水分調整と品質管理を徹底し、22～23cm程まで成長させます。</p>
	 <p>収穫したきゅうりは、自宅近くの作業場で箱詰め作業をします。サイズに分けた後、きれいに箱詰めされます。</p>	 <p>箱の中は、きれいに揃えてあります。(5kg詰)</p>	 <p>箱詰めされたキュウリはJA島原雲仙で梱包され出荷されます。</p>